

報告

第29回日本臨床環境医学会学術集会を終えて

関根嘉香

第29回日本臨床環境医学会学術集会 会長

2021年6月26日（土）～8月27日（金）の2か月にわたり、第29回日本臨床環境医学会学術集会はオンライン形式で開催されました。本学術集会は、本来2020年6月に東海大学湘南キャンパス（神奈川県平塚市）において開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行により1年間延期となりました。2021年に入り、前年冬季から続いた“第3波”が落ち着きを見せ、現地開催の可能性が見え始めていましたが、4月頃から変異ウイルスの感染を含む“第4波”が立ち上がり、現地での対面開催は断念せざるを得ない状況になり、オンライン形式で実施することになりました。

言うまでもなくオンラインでの開催は、本学会においては初めての経験となります。他の学協会におかれましても様々な方式が試みられ、現地開催に比較的近いものにZoom等を用いたリアルタイムミーティングがありました。しかしながら、当方も他の学会で経験しましたが、講演者の不慣れや接続不良などに起因するトラブルが散見され、また質疑応答も控えめになりがちな印象を持っていました。本学術集会のテーマは「人と環境のネクサス」。ネクサスとは「繋がり」という意味であり、参加者が“繋がり”をできるだけ持てる形式はないか、実行委員の先生方ともご相談させていただき、最終的にすべての講演をYouTubeによるオンデマンド配信、質疑応答はコメント欄に記入、配信期間は2か月間といたしました。参加者が2か月にわたり、自分のタイミングで講演動画を視聴できる点は、この形式の大きな

メリットの一つと言えるでしょう。講演者には音声入り動画を作成後、Googleアカウントを用いてYouTubeの専用チャンネルにアップロードしていただきました。参加者には、学術集会ホームページからID/PWを用いて各動画にアクセスしていただき、視聴して頂きました。

第29回日本臨床環境医学会学術集会

HOME
ご挨拶
開催概要
プログラム
演題登録
参加登録
動画作成・登録方法
広告募集
臨床環境医学会HPへ

第29回日本
臨床環境医学会
学術集会

2021.6.26-8.27
オンデマンド形式

人と環境のネクサス

開催形式	動画のオンデマンド配信、抄録集の配布 発表動画は6月26日(土)から7か月間配信(参加登録者のみ閲覧可)
開催行事	特別講演・教育講演、分科会報告、一般研究発表
演題申込・抄録登録・事前参加登録	2021年3月15日-5月15日
期間中参加登録	2021年6月26日-8月26日
会長	関根嘉香(東海大学理学部 教授)
お問合せ	東海大学関根嘉香研究室内 第29回学術集会実行委員会 E-mail: jsce29@gmail.com TEL: 0463-56-1211(内線3761)
詳細はホームページをご覧ください	http://www.med.kindai.ac.jp/jsce2020/

写真1 学術集会ホームページ

さてプログラムは、特別講演2件、教育講演4件、分科会報告3件、一般研究発表24件（1件は講演キャンセル）となり、参加者数は60名となりました。

■特別講演

理工系、医学系の各分野から約50分のご講演を頂きました。

浦野真弥先生 ((有) 環境資源システム総合研究所 / エコケミストリー研究会) 「化学物質の利用とリスク」

松本健治先生 (国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部) 「アレルギー疾患とマイクロバイオーム」

■教育講演

教育講演では、生活環境中の化学物質から新型コロナウイルスのパンデミックまで、さまざまな視点から「人と環境」の関連を捉える約30分のご講演を頂きました。

畑中朋美先生 (城西大学薬学部・東海大学医学部) 「フタル酸エステルの経皮吸収におけるエステラーゼの機能解析」

山本典生先生 (東海大学医学部基礎医学系生体防御学) 「新型コロナウイルス感染症の予防・治療について」

ティースマイヤ・リン先生 (慶応義塾大学環境情報学部) 「パンデミックにおける健康の社会的決定要因 (SDH)、環境の決定要因～東南アジアの調査と国際保健医療との関わり」

香山不二雄先生 (自治医科大学医学部) 「環境汚染物質による健康障害の評価と予防」

■分科会セッション

日本臨床環境医学会では現在3つの分科会が活動しています。各分科会からそれぞれ活動報告をして頂きました。

- ・環境アレルギー分科会 (平久美子先生)
- ・環境過敏症分科会 (北條祥子先生、黒岩義之先生)
- ・病院・高齢者施設環境分科会 (柳宇先生、尾方壮行先生)

■一般研究発表

一般研究発表の講演時間は10～15分とし、23件のご講演を頂きました。セッションとして、化学物質過敏症 (9件)、建築と物理環境 (6件)、実験的解析 (5件) など従来のカテゴリーに加えて、新型コロナウイルス感染症 (3件) が設けられま

した。どのセッションも座長を中心に活発な質疑応答がなされていたと思います。

実行委員会では会期末に視聴統計を取らせていただきました。その結果、各講演動画の再生回数は25回～68回、平均44回、コメント欄に記載されたコメント数は1個～6個、平均2.5個でした。これらの数字の評価は現時点では困難ですが、少なくとも各講演動画を参加者の2/3が視聴し、1回以上の質疑応答があったとも言えるでしょう。

会期終了後、一般研究発表を対象に会長賞・奨励賞の選考を行いました。選考方法は会長一任とのことで、今回は当方を除く実行委員会の先生方に各賞候補を推薦 (投票) していただき、得票数の多かった方を選出、その結果、各賞を次の方々に授与させていただきました。

【会長賞】

戸高惣史先生 (AIREX 株式会社)

演題「膵臓癌患者の皮膚から放散する微量生体ガスに関する研究」

【奨励賞】

黄琳琳先生 (正修科技大学)

演題「公衆トイレの室内空気質影響因子について - 台湾高雄市大手カフェチェーン店における実測結果を例として」

演題「幼稚園に適用する室内空気汚染物質濃度基準について」

両先生には、ご研究の益々のご発展を祈念し、表彰状を贈呈させていただきました。



写真2 会長賞を受賞した戸高惣史先生

第29回学術集会は、図らずも変則的な開催形式となりました。しかしながら、オンライン形式のメリットも少なからず発見することができ、今後の学会・学術集会のありか方を考える上で、一つの経験知が得られたと思います。これを財産として、第30回学術集会（柳宇会長）にタスキを渡したいと存じます。

本学術集会は、一般社団法人室内環境学会の後

援を頂き、東海大学総合研究機構から一部補助を受けて実施しました。また、開催に際して親身にご指導いただきました木村穰理事長、理事の先生方に深く御礼申し上げます。さらに2年の長きにわたり、献身のご尽力いただいた実行委員会の先生方の存在なくして本学術集会の成功はあり得ませんでした。ここに記して深く御礼申し上げます。

第29回学術集会実行委員会

会 長	関根嘉香	東海大学理学部化学科
実行委員	寺山隼人	東海大学医学部基礎医学系生体構造機能学
実行委員	加藤 明	東海大学医学部基礎医学系生体構造機能学
実行委員	徳村雅弘	静岡県立大学食品栄養科学部環境生命科学科
実行委員	水越厚史	近畿大学医学部環境医学・行動科学教室
実行委員	池田四郎	株式会社ガステック，東海大学研究員
実行委員	松本晃一	NPO 法人東海大学地域環境ネットワーク
実行委員	山野裕美	株式会社シミズ・ビルライフケア